学園の歩み

創立１０周年記念号

大阪府立
東住吉高等学校

創立十周年記念のことば

学校長　葭原泰雄

本校は今年をもって齢十年を数えることになりました。顧みますれば昭和３０年４月こゝ大大阪の城南の地に孤々の声をあげ、その後幾多の変遷を経て今日に至ったのでありますが、その間初代校長堀江駒太郎先生を中心として当時の教職員及び生徒一同が打って一丸となり、学校創設の基礎を固められたその苦心は並大抵のことでなかったと思われます。

それより先当地東住吉区は莫大な人口を有しながら未だに府立の高等学校もなく、年々延びて行く高校進学希望者を収容するために、何としても府立高校の誘致を促進せねばならないとの地元各位の要望切なるものがあり、昭和２７年３月には東住吉高等学校建設委員会が設立せられ、爾来３ヶ年その切なる希望が叶えられて昭和３０年に愈々本校の創立となったのであります。

この様な貴い好意と熱意によって誕生した本校は今や南大阪の一角に、静かなる環境を誇る学舎として健やかに成長をとげて参りました。愈々これからは更に一段の飛躍向上を目ざして、こゝに創立十周年記念式典を挙行する運びとなりました。これを契機として今後我々教職員と生徒とが努力精進をつゞけ、明日への希望を達成し各方面の御期待にそいたいと存じますので、今後とも関係各位のより一層の御指導御鞭撻をお願いする次第であります。

学　校　長

初代・堀江駒太郎先生

現・葭原泰雄先生

— 校　門 —

碑文

たくましい
自主創造の精神

—石碑—

—玄関—

想　い　出　の　一　端

初代校長　堀　江　駒　太　郎

東住吉高等学校の創設を命ぜられてからはや十年の歳月が流れた。“光陰矢のごとし”の語をしみじみと思わざるを得ない。昭和三十年の三月のはじめ突然呼び出されて新設校の創設を命ぜられた時は本当に驚いた。当時佐野高校在任二年半余に過ぎなかった上に、佐野高校拡充五ヶ年計画を立案、教職員やＰＴＡの了解を得て四月を期して積極的に乗り出すつもりで着々準備を進めつつあった際であったので、強硬に辞退した。しかし、教育長は頑として聞かず、“君、これは命令と心得て欲しい”との事であったので、“やむを得ません”と答えて引き退った。

校舎の方は施設課の努力で摂陽中学校の校舎を拝借、改装してもらったが、教職員の方はたとい当局の積極的な協力を得ても四月八日の始業式に間に合わせ得るかどうか自信がなかった。そこで教育長にあらかじめ“最悪の場合四月八日の開校式をすませた後臨時休校し、教職員の確保と共に授業を開始し、休暇中に授業を行なうことによって何とかしたい”旨を話し了解を得ておいた。

三月十五日までは前任校の事務も見る義務があったので、教職員確保の仕事は多くは夜になるのが常であった。五月の終り頃までは午前一時までにねる事は殆んどなかった。終日バス電車自動車で乗り廻して午前一時頃帰宅する姿を見て当時高校を卒業した長男が“おやじやれるんかよ”と心配そうに聞いたのも今となってはなつかしい想い出の一つである。人事については（１）同一年度に同一校から一名以上採用しない（２）年齢構成は二十歳四割、三十歳四割、四十歳二割の基本方針をたてた。しかし第一の方針は実現できたが第二の方針は必ずしも思うようにはゆかなかった。

また、三月中は新設校の正規の職員は自分一人であったから入学試験は全部天王寺高校でやってもらった。入学試験当日両校の受験生に後藤校長から注意をしていただいたが、その時“天王寺に比べて新設校の受験生の体格が極めて悪い”との強烈な印象を受けた。判定会議に出たのも新設校の職員は自分一人であった。天王寺の合格者の最低点が新設校の最高点より高かった事も今に忘れ得ない強い印象である。新設当時、始業一時間程前に必ず登校する一生徒があった。感心な生徒であると思い事情を調べてみると新設校に通学するのを友人に見られるのが恥ずかしいので特に早く登校しているという事が判明し暗然とした気持になった事も今に忘れ得ない。

ＰＴＡについては、合格発表と同時に比較的多くの合格者を出した中学校の校長に集まっていただいてＰＴＡ創設準備委員を推薦してもらい、天王寺の規約を殆んどそのまま拝借し、四月八日午後創立総会で規約役員会費等を決定してもらった。初代会長片岡氏は最もよき協力者の一人で二年連

続会長をお願いした。創設当初の複雑な道路敷地問題ガス水道電気問題校地拡張問題等の円満解決は同氏の献身的な努力による所が極めて多い。終生忘れ得ない感激である。

教育方針については、看板にいつわりあるようなスローガン教育はやめようと考え、逞しい自主独立の人間の養成を目指してあらゆる機会に生徒を鍛えるという趣旨の極めて簡単なものとした。更に戦後の府立高等学校は戦前に比べそれぞれの特色が失われ大学進学と就職スポーツ等で辛うじて特色を出しているに過ぎないように感ぜられてならなかったので、特色ある学校の育成という事に主眼を置いて教育計画学校行事等を工夫し実施可能なものから実施した。往復四粁の徒歩通学、冬期のオーバー着用禁止、上靴下靴の区別、全校金剛登山、男子一万米女子五千米のマラソン、東住吉区内中学校訪問駅伝競争、全校水泳、長髪の禁止、毎日の朝礼、野球部の設置禁止、当麻寺合宿補習、五分間スピーチ、随想録、会食、教育キャンプ、スクールカラー（緑）、スクールフラワー（バラ）、スクールツリー（銀杏）の設定等は以上のような考え方の上に立って教職員各位と協議の上実施し又は決定した主なものであった。体育的なものが比較的多かったのは上に述べた第一回入試当日の印象が余りに強かったためでもある。しかし、進学指導に熱心な教職員からは“本校を体操学校にするつもりか”と痛烈な批判を受けたことも幾度かあった。特色ある学科の設置や宿泊施設の建設等も特色ある学校の育成方針の一環として創設第一年から考えておったが微力のため在任七ヶ年中には遂に実現できなかった。申しわけないと感じている。

従来の修学旅行については以前から疑問を懐いておったので創設当初から幾度か教職員と論議を交わし、又東住吉区内の小中学校の修学旅行の行先も調べ、更に大阪学芸大学の教育学研究室の教授や教育委員の意見も徴した上廃止と決定した。その代わりに二年の夏休みにキャンプを実施する事とし一期生の一年生の夏休みに事前指導の意味もかねて河内長野市の延命寺で宿泊訓練を行なった。その直後小野教頭（現三国丘高校長）を中心に数名の教職員に静岡山梨長野の三県に赴き候補地を調査してもらった。その結果長野県の霧ヶ峯と決定し翌年五月にはＰＴＡ会長片岡氏にも実地視察をしてもらった。又一方浜田教育長の好意ある協力を得てＹＭＣＡの松田氏を紹介していただいた。最初の教育キャンプの際は現地で松田氏の懇切な御指導をいただいた。松田氏が一日早く現地を去られた時生徒諸君が泣いて別れを惜しんだのも忘れ得ない事の一つである。何分全校生徒のキャンプは未経験の事である上に現地はその名の示す通り気候の変化の烈しい所であるだけに不安も多かった。従って最高責任者として重大な責任を感ぜざるを得なかった。万一の場合の事も考えひそかに辞表を用意しておったが第一回のキャンプが成功裡に終わったので帰宅と同時に焼却してしまった。爾来十年教職員各位の献身的な努力と数多い人々の暖い御協力を得て教育キャンプは幸いにして今日まで続けることができた。

新設校の創設を命ぜられてから数日たったある日の事、阿倍野橋で大阪学芸大学の体育科主任重田教授に出会った。一応の挨拶の後重田教授は“堀江さん、外国では体育大会の際運動場の周囲に縄を張り廻らしているのを見たことがなかった。日本では何故それができないのだろうか”と簡単に話された。その時自分はひそかに“新設校がかならずやってみせる”と決意した。この話は重田教授は既に忘れておられると思うが自分は必死になってその実現に努力した。幸いにして教職員各位の協力と生徒のよき理解と相まって東住吉高校では毎年の体育大会の際運動場の周囲に縄を張り廻らすことなく秩序正しく競技を実施する事ができた。今十年前の阿倍野橋に於ける重田教授との簡単な会話をなつかしく想い出す次第である。

創設当時の生徒の気風の一端は上に記したがそれを拭い去るためにも種々の工夫をこらした。機会あるごとに生徒と共に万歳を大声で三唱したのも同じような考え方の一つの表現であった。金剛山上で、霧ヶ峯の霧の中で、上六の近鉄降車口で、体育祭の終了直後運動場で、卒業式場で、実に度々万歳を三唱し遂には万歳校長のニックネームまでもらうに至った。最初は生徒から嫌われ会食の際“あれだけはやめて欲しい”と生徒によく言われたものであるが、ジメジメした気持を拭い去り青年らしい気魄を植えつける極めて簡単な一方途として在任中は繰り返し繰り返し万歳を三唱した。遂に生徒の側から機会があると“万歳”“万歳”と請求されるまでにいたった。

その他想い出はつきないが紙数に限りがあるのでこのあたりでやめることにする。創設十年を迎えた東住吉高校は創設期から混乱期（勤評時代）のきびしい試練を経て今や高校生急増に対処した拡張期も終わりに近づいた。真の内容の充実発展はこれからである。過去十年の貴重な体験の上に特色のある逞ましい自主独立の人間の養成場所として永遠に発展向上をつゞけられん事を心から祈ってやまない。

本校の現況と将来への希望

学校長　葭原泰雄

本校は昭和３０年４月の創立でありますから、学校の歴史としては決して古いものとは申せませんが、創立以来他の高等学校とは多少趣きを異にした所謂特色のある高校として成長して来た筈であります。「自主独立の精神」をモットーとして質実剛健の気風を養い、将来生徒が社会人として世の中に出た時に、何物にも屈しない強い身体と精神を養うよう基礎づけられて来ました。

先づ有名なのは修学旅行をやめて信州霧ヶ峰の教育キャンプを実施していることであります。夏の真最中に標高１７００米の「日光きすげ」の花が咲き乱れている大自然の中で、職員生徒が寝食を共にして色々の経験の中で自己の力を鍛えて行くこの行事は恐らく全国的に見ても稀な行事であります。一学年５５０名の大部隊となって輸送宿舎その他の実施面で可なりの困難を感じながらもそれを克服して、未だに学校の誇りとして生徒の終生の思い出として続けられて居ります。

今年も去る七月に一学期考査終了後、二集団に分かれて実施しました。従来は二学年の夏休みに実施して来ましたが、昨年度初めての試みとしてかゝる生活体験は高校生活の初期に味わわし、その後の学校生活に活用せしめる方がより効果的であるとの見地から、思い切って第一学年に変更することにしました。

また大和当麻寺の奥の院宿坊を借りて行なう春と夏の合宿補習、一日10時間の勉強に耐えるその辛抱強さ、近頃の青少年に乏しい忍耐力養成には格好の行事と言えましょう。2キロ以内の通学は徒歩で行ない、冬期にも外套を用いず、多少スパルタ的な所はあるにしても、兎角軟弱に陥り易い年頃の若人を何とかして正しく健かに育てたい一念に他ありません。

何れの学校でも創立当時は多少ファイトがなくやゝもすれば劣等意識にかられる憾みがありますが、本校では絶えず「自信をもて」といって励まし、種々の施策を用いて生徒の自覚心を向上せしむる様努力して来たお蔭を以て、最近の生徒は可成り意欲的となり積極性をもつ様になって来ましたことは、誠に喜ばしいことゝ言わなばなりません。大学進学にしても自分の力で何とかせねばならないとの気概が出て来ました。努力さえすれば可成りの成果を挙げ得るとの自信が出来てきたようです。霧ヶ峰の教育キャンプを通じても、心身ともに強い自信を養い得るものと思われます。

一方クラブ活動の面では、広い運動場を利用して各部とも相当活発な活動をしている。従来から陸上競技では優秀な成績をおさめ、勝れた先輩を出している。ハンドボール部その他も全国大会に出場した経験を持っている。又文化クラブでも特に美術と書道は、何れも全国的に成績をあげ、書道部は三年連続して全国準優秀の栄冠を獲得している。こういう経験の中で生徒諸君も夫々に大いに自信をつけて来ている訳であります。

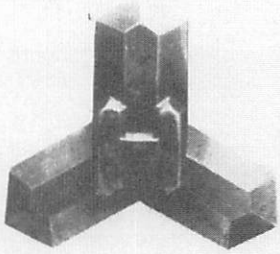
次に学校の施設設備の点から見まして、学校敷地は１１、０００坪に近く、運動場は市内としては可成り広く整備せられ、校舎その他は一応の完成を見ましたが、将来への懸案として初期に出来た木造校舎一棟は、是非とも早い機会に鉄筋化を要望して居ります。また講堂も完全な学校教育を推進する上に是非とも必要でありまして、これ亦早期実現を期待している訳であります。

先年通用門の北側の土地に、ＰＴＡの好意により緑友会館を建設し、一階を学校食堂として使用している訳ですが、総坪数１００坪でその広さと設備の良さを誇るものであります。最初から三階建の同窓会館的な建物を計画して居りましたので、今回の創立十周年を記念してそれの継続事業として更にその上に二、三階の増築工事を計画し、愈々その建築に取りかゝり、本年中には全部完成の予定であります。これが出来上りますと将来主として特活のために利用する運動クラブの合宿場及びＰＴＡや同窓会員の集合の場として使用して行く考えであります。但し差し当り生徒急増時には、二階を美術教室、三階を書道教室に転用し、近い将来木造校舎鉄筋化の際は新しい芸術・視聴覚教室等の設備完成を待ってその方に移転し、緑友会館本来の用途に当てたいと思って居ります。

本校は今日までに漸く十年の歴史をかたち作って参りましたが、　この次の十年は如何にあるべきかは我々の大いに考えなければならない所であります。学校の周囲もやがて全く家でうずまることでしょう。本校をとりまく環境から判断してこの地域の高校進学者も益々増大することゝ思われます。南大阪の発展と歩調を合わすかの如く、本校の教育内容も一段と充実して行かねばなりません。この周囲は官庁と学校の多い地域でありまして、将来とも文化センター的役割をもつ公算が大であります。然らばこそ我々も大いに奮励努力して行かねばなりません。人間で言えばこれからがティーン、エイジに入るところです。伸び盛りの成長期に入る訳ですが、此際若さに物を言わせてうんと発展したいものと思います。

学　校　沿　革　概　要

１９５２年（昭和27）	３月１日	東住吉地区高等学校建設委員会創立
１９５５年（昭和30）	３月16日	大阪府立東住吉高等学校と称し創立、大阪府立佐野高等学校長堀江駒太郎創立事務取扱を命ぜられ、事務所を府立天王寺高等学校内に置く
	３月24日	事務所を大阪市立摂陽中学校（東住吉区平野野堂町４７８）内に移転する
	４月１日	校長堀江駒太郎以下職員１５名任命
	４月８日	入学式　入学者１５０名
	９月１日	校地整地作業開始
	12月10日	地鎮祭　第一期工事開始
１９５６年（昭和31）	３月31日	第一期工事竣工（木造二階建西半分８室）
	４月５日	新校舎（東住吉区中野町１００）に移転
	４月９日	入学式　入学者１５０名
１９５７年（昭和32）	３月15日	第二期工事竣工（鉄筋三階建本館東半分）
	４月８日	入学式　入学者３００名
	10月２日	校歌発表
	10月13日	創立３周年記念式
１９５８年（昭和33）	２月25日	第一回卒業式　卒業者１３６名
	３月31日	第三期工事竣工（木造二階建東半分６室、鉄筋二階建理科教室準備室東半分６室）
	４月８日	入学式　入学者４００名
１９５９年（昭和34）	１月12日	第四期工事竣工（鉄筋二階建家庭科教室、準備室７室）
	２月24日	第一回校地拡張　１６７１.８平方米
	２月25日	第二回卒業式　卒業者１４３名
	４月８日	入学式　入学者４００名
１９６０年（昭和35）	３月12日	第五期工事竣工（鉄筋三階建本館西半分、音楽教室、体育館）
	３月25日	第三回卒業式　卒業者２９１名
	４月８日	入学式　入学者４００名
	８月25日	みどり会（Ｐ.Ｔ.Ａ　ＯＢの有志）結成
	10月13日	水泳プール竣工
１９６１年（昭和36）	３月25日	第四回卒業式　卒業者３６８名
	３月31日	第六期工事竣工（柔道場、自転車置場、クラブ部室）
	４月８日	入学式　入学者４００名
１９６２年（昭和37）	１月30日	第二回校地拡張２２６２.１５平方米
	３月24日	第五回卒業式　卒業者３９６名
	４月１日	校長堀江駒太郎は大阪府立清水谷高等学校長を命ぜられその後任として大阪府立天王寺高等学校教頭荻原泰雄本校校長を命ぜらる
	４月９日	入学式　入学者４５０名
	12月25日	緑友会館一階（食堂）竣工
１９６３年（昭和38）	１月20日	緑友会館落成式
	２月26日	第六回卒業式　卒業者３７３名
	２月28日	急増対策新校舎竣工（鉄筋二階６室）
	４月８日	入学式　入学者　５５０名
１９６４年（昭和39）	２月25日	第七回卒業式　卒業者３６８名
	４月８日	入学式　入学者５５０名



校章の由来

校章は単なる記号ではなく、その形態と校風に共通な支配力がはたらき、簡潔さは現代的聡明さを表わし、しかもそこに独自性が必要だろう。そのような意味から一般に校名やその土地の由緒に関連づけられたものが多いが、さて本校の校章はどうだろう。一見して変化が少なく簡潔で中心に英文字Hの入った所はちょっとモダンな形をしているが、基礎になっているのが人間教育に邁進するという意味で“人”の形をなしている。人という字は単純な一本調子でなく、三つの大きな方向を持っている。その上細部ではそれぞれ違った面を持っているが、勿論それらが秩序ある結合を持たねばならない。これは一人の人間の場合もまた人間の社会としても同等である。この基盤の上にHを中心に乗せ統合が強められている。Hはヒト、ヒューマン、東住吉、本当の教育、ハイスクール等の頭文字から来ている。

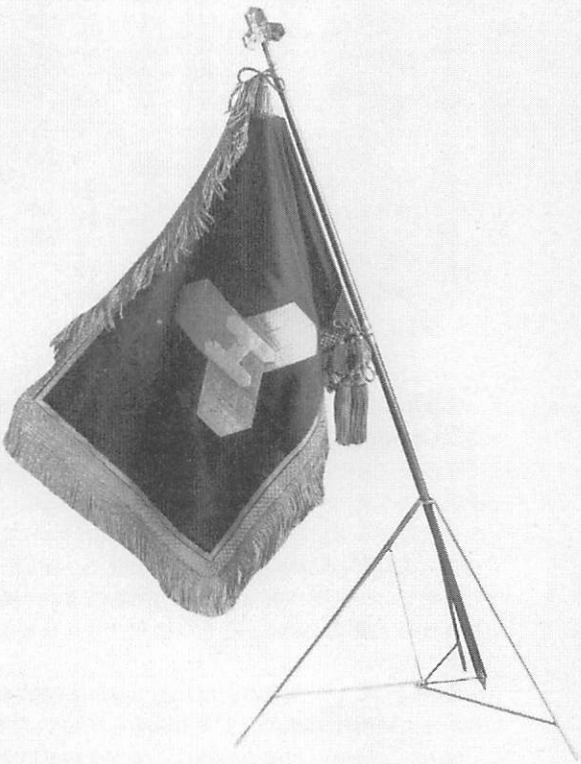
奇縁というか、人を基盤としたこの形が毘沙門の紋所に似ている。仏法守護の神部に四天王という、いわば才腕兼備の実力大将がいる。毘沙門はその随一で別名を多聞とも言う。この博識と実践の威徳は殊に優れ四方に善く聞えわたる。特に東の守りを固めているこの毘沙門さまが守られているのが信貴山で、その開山みょうれんさんは宇治拾遺や絵巻物で卓抜な名僧知識振りを発揮して今日もあがめられている。わが校は間近にこの信貴山を仰ぎ見て、日夜この現世利益をなんらかの形で受け、また守ってもらうことが出来ればありがたいことである。（この文章は本校校章考案者富田民治氏のものである。）

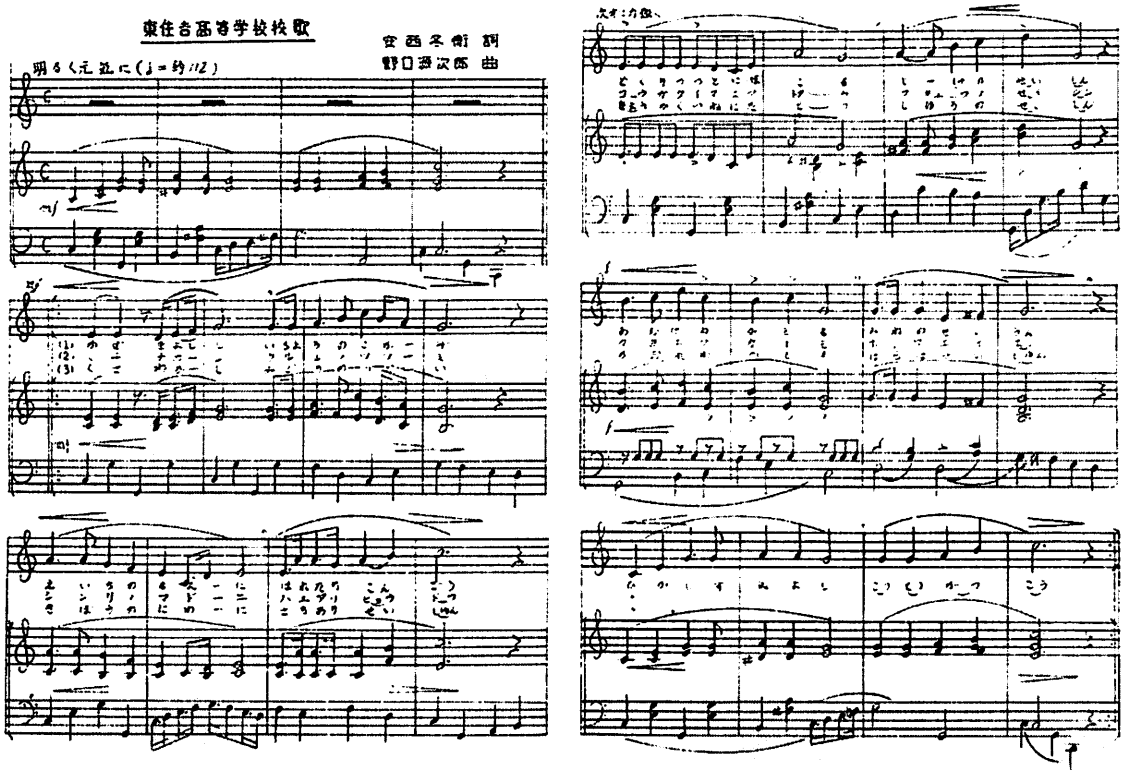
校旗について

本校創立三周年記念事業の一環として、PTAの好意が校旗を制定した。

地色は本校のシンボルとして定めたグリーン（希望）とし、中央には創立当初府の指導主事富田氏が工夫考案してくれた校章を染め出した。校章は人間教育の理想を象徴すると共に本校のはるか東方山上にまつられている信貴山の毘沙門天の紋に似せてある。即ち仏教の信仰による智恵の神の紋に通じている。勉学を通じて知性豊かな人間を養成したいとの創業の精神の一端を表わしたものである。

私共は本校に学ぶ若い人々が希望に燃えて勉学にいそしみ、知性豊かな人間として、すこやかに成長せられることを心から祈っている。（この文章は初代校長堀江駒太郎先生のものである）





東住吉高等学校校歌

安西冬衛 作詩
野口源次郎 作曲

一、風さよし　銀杏の木蔭
英知の門に　晴れたり金剛
独立風に誇る　自主の精神
仰げわが友　峰の青雲
東住吉高等学校

二、道ながし　漆の堤
真理の窓に栄あり平等
好学今に伝う　不朽の精神
通えわが友　里は永遠
東住吉高等学校

三、草わかし　みどりのつばい
希望の庭に　幸あり青春
共学恒に讃う　自由の精神
奏れわが友　薔薇は清純
東住吉高等学校

「薔薇は清純」という麗辞が私の内部で結晶を遂げた刹那、わが東住吉高校校歌の姿勢がたちどころに決定いたしました。

５月２０日のさわやかな朝のことで、去年のくれにはじめて私が学園を訪ずれて、親しく校風をまのあたりにしてから半年に近い光陰が流れたことは諸君のすでに御承知の通りで、校長先生はじめ、諸先生、又当日お目にかかって校歌についての希望や意見を交換した生徒会の代表の諸君はさぞかしこんどの校歌の完成を待ちわびていらしたこととお察しいたします。

しかし、一見空に費やされたと思われるこの時間は、五節三章より成るこんどの作品のモチーフとなった「薔薇は清純」の七音のクリスタリゼーションのために傾けられたと申してよろしいでしょう。

それにしても、作者の自由にたっぷりと時間を費して下さり、その間私の疎懶を一言も責められなかった御関係者諸君の寛容な精神に対しては深く敬意と謝意を表する所以であります。

なお、この度の作品の特徴は、すべての音節を尽く休言止めにした点でこれは東住吉高校が、堅い精神基盤の上に立って高い理想の世界を志向する止みがたいすがたを具象したもので、諸君が勇気と自信を以て、清く明るく力強くこの校歌を高唱することによって、校風を永遠に高昇して頂ければ作者によって望外の光栄であります。　（作者のことば）

教　職　員

— 創立当時 —

— 現　在 —

座談会

出席者
（敬称略）

塚本盛治　（現職員）
西内裕子　（現職員）
辻　拓也　（卒業生）
田中貞子　（卒業生）
田村幸雄　（卒業生）
吉河チヨノ　（卒業生）
村上碩次　（在校生）
相原一重　（在校生）
中吉　緑　（在校生）
司会
三木雅文　（現職員）

この十年を想う

司会　たいへん暑い日中をお集まりいただきありがとうございます。早速はじめたく思います。まず創立当初の思い出について。

塚本　最初の一年は摂陽中学での生活です。いまから思うと隔世の観です。当時付近の地価は坪三百円。現在は三万円ですからね。……クラスは3教室、夕立で授業もできない粗末なバラック建の教室でした。化学の実験はバケツに水をいれビーカーで汲む有様でした。

辻　けれども生徒数が少ないので先生とは交わりが密接で思い出が深い。

西内　伝統のない学校でなにかと重荷を感じたがいまではなつかしい。……辻さんの云ったように非常に先生と生徒の間が家族的でした。だから1．2期生はいまも学校に甘えている。(笑)

田中　新設校で先生も大変苦労されたと思います。

塚本　校舎の配色をやりました。測量もやったしなんでも屋でした。(笑)

西内　教師もなれない事をずい分とやりました。月給は変らないが。

辻　僕等も中学四年生の感じ。高校に入学した気持に少しもなれなかった。(笑)

司会　その後の学校の拡張について何か。

塚本　二年目になって現在の所に移転した。木造五教室。校門もなくへいもなし。

辻　どこからでも学校にこれた。(笑)

塚本　周囲は田んぼでこやしくさかった。(笑)

村上　話を聞いていると現在の我々は余りにも恵まれている。僕はこの学校の環境と設備の良さにひかれて入学したのだが。

相原　私もそうです。

西内　現在では家庭科の設備は短大級です。

司会　グランドも立派になりましたが。

辻　　最初はでこぼこだらけ。体育の時間はモッコかつぎをした。

西内　　そのめぐまれないグランドから優秀な選手が輩出しましたね。武田先生など。

吉河　　私は六期生ですが入学したのは校舎が完成した頃で先輩の苦労話もどうも実感が伴わない。ただ工事のために周囲の道路は荒れ放題でこんなキタナイ所に入るのかと思ったが。

塚本　　そうでしたね。本校の先生の制服に長グツが……（笑）

田村　　五期生の入学のとき理科、家庭科教室が完成していて一年生のときテニスコートがつぶれて本館が出来た。プールは卒業のとき完成した。

辻　　僕等はバラックに入ってテントの中で卒業式……（笑）

吉河　　六期生の卒業直前に食堂が出来た。三年生を優先ということでさかんに利用した。（笑）

司会　　十年一昔と言いますが、一期生百五十人の時代から現在の千五百五十人の大世帯となって学校行事も運営の面でかなり変ってきたと思います。それについて何か。……辻さんどんな行事が印象に残りますか。

辻　　朝礼とキャンプです。

村上　　どんな朝礼でしたか。

辻　　集まって何もなければ体操するか走る。

吉河　　朝礼反対の落書事件がありましたね。

田中　　大きな声で「おはようございます」と何度もやり直しさせられた。

田村　　朝みんな集ってあいさつをするのは生活にけじめをつけるので良い。

中吉　　一期生のキャンプはどうでしたか。

辻　　めしたきに追れたキャンプです。しかし団結が生れた。

田中　　四期生は四百人で二団にわかれる。

田村　　五期生からキャンプ地を沢渡りに移した。

辻　　六期生のキャンプから卒業生が一緒に行くようになった。僕も行ったが最初のころと様子が違ってきている。

塚本　　一期生のころはインスタント食品がなかったからね。

西内　　男女共学のよさをキャンプで感じます。

辻　　女子はそんなに仕事をしない。男子は実によくやる。

吉河　　男子は親切です。（笑）

田村　　僕等のときは堀江天皇が君臨していて反撥するものがあった。しかし大学に入ってみてあの様な教育をうけてよかったと思っている。

司会　　十年の歳月という年輪が校風にどっしりした重みをつけてもよい頃と思うのですが。本校の校風について感じられることを。

田村　　中学時代きびしい学校と聞いていた。良い意味で野蕃さがほしいです。

辻　　初期は学園という雰囲気が強かった。毎日が楽しかった。

田中　　自由な楽しい雰囲気の中で他の学校に比べるとお互が人間的なつきあいが出来たように思う。

田村　　新設校の割に負けん気がない。もっと積極的でなければ。

田中　　在学中は勉強をおしつける予備校化反対と言うてきたが卒業してみて本当は勉強していなかったとわかった。

吉河　　クラブ活動を通じて先輩、後輩のつながりが出来たが入学したときクラブに一つは入るよう指導されよかった。明るい学校だと思います。

村上　　先生も若々しい。全体に若さが満ちている。

田中　　本校は精神的にゆったりして大らかな人間形成ができる。

塚本　　本校の伝統とは何ですか。表かんばんは自主独立ですが。

田村　　ちょっと一口では言えない。

西内　　学校のキャッチフレーズは十年では無理です。強いて言えば「よく遊びよく学べ」

田中　　もう少し勉強の意欲をもってほしい。

辻　　どうも厳しさが足らないと思うんです。それから卒業しても学校を愛せる人間を育てゝほしい。……

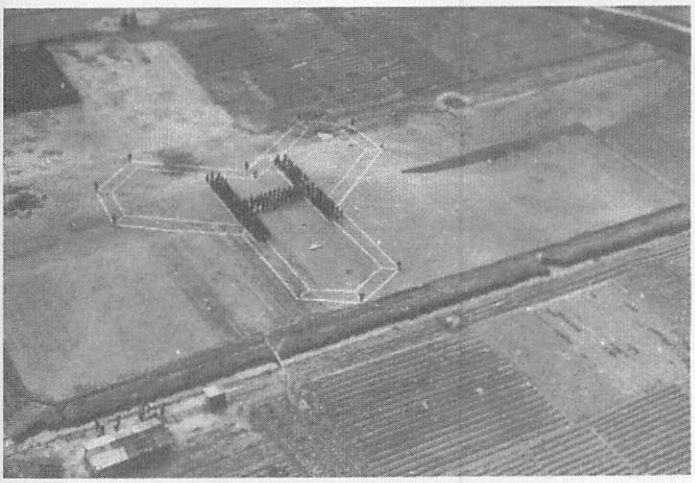
司会　　皆様の本校について抱いておられる思い出やさまざまな御考はつきぬものがあろうと思いますが今日はこのへんで終らせていただきます。どうもありがとうございました。

校舎の変遷

— 摂陽中学内仮校舎 —

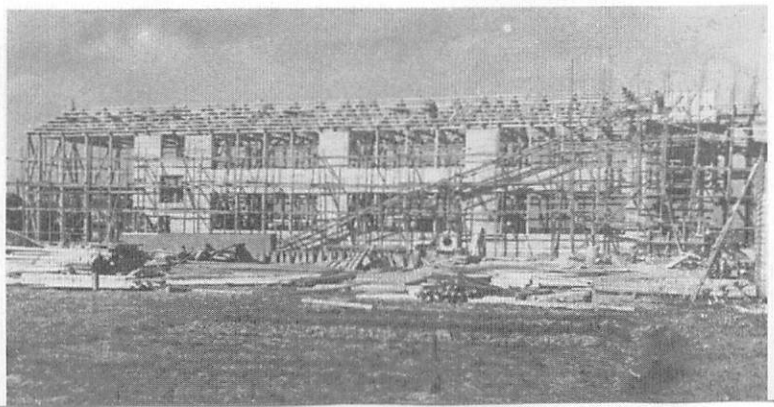
1955年度

— 現校地整地風景 —



— 一期生による人文字 —

— 木造校舎西半分工事 —

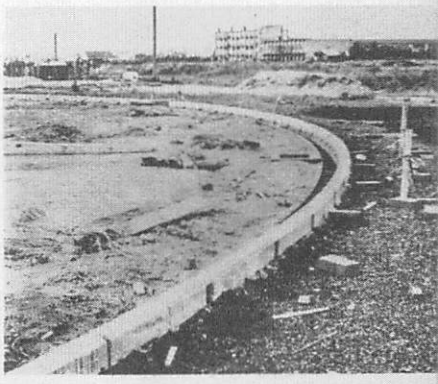


— 地鎮祭 —

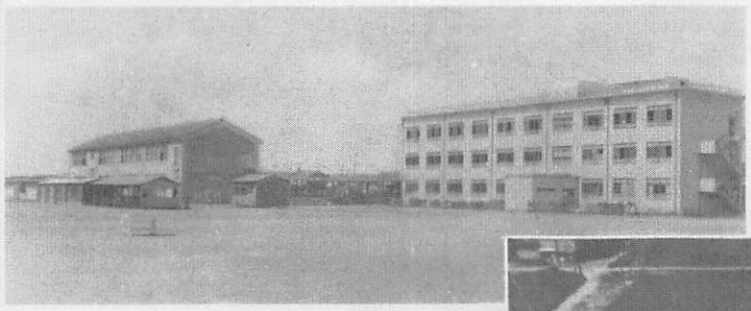
１９５６年度

— 木造西半分完成 —

— 運動場整地 —



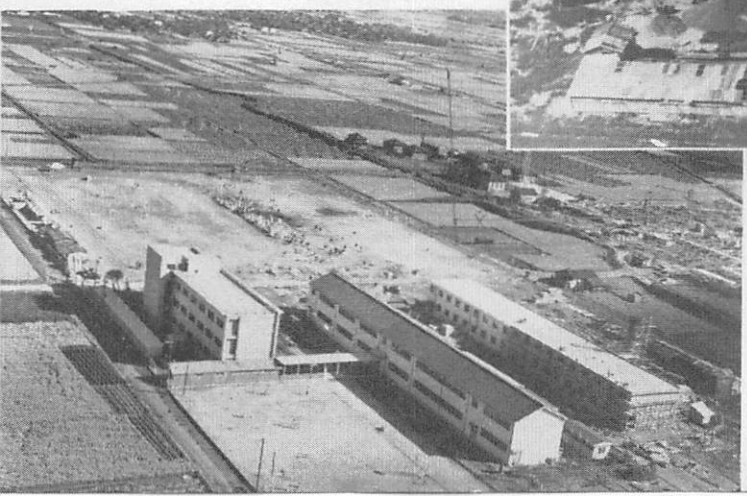
— 第三種公認トラック工事中 —



— １９５７年度校舎全景 —

— １９５８年度校舎全景 —

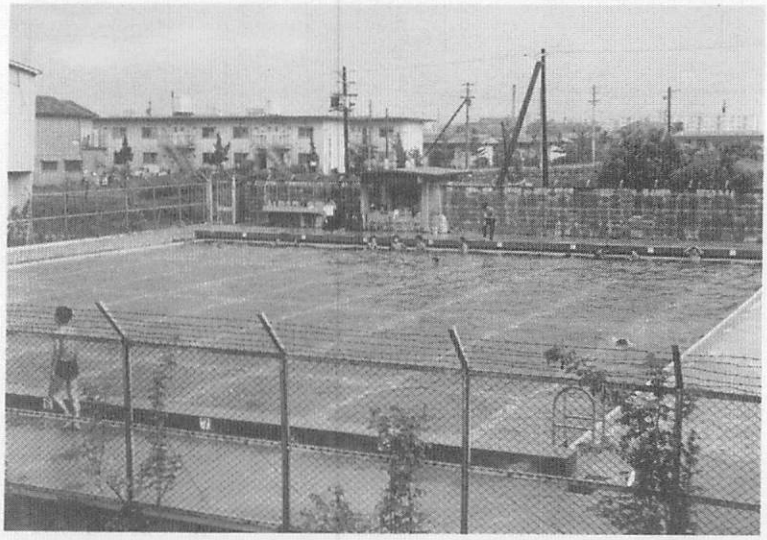
— １９５９年度校舎全景 —



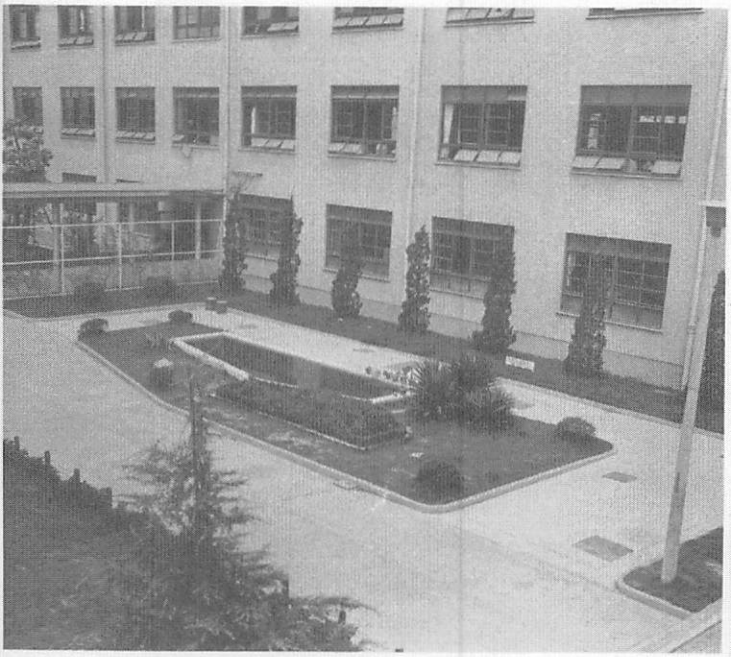
現校舎全景

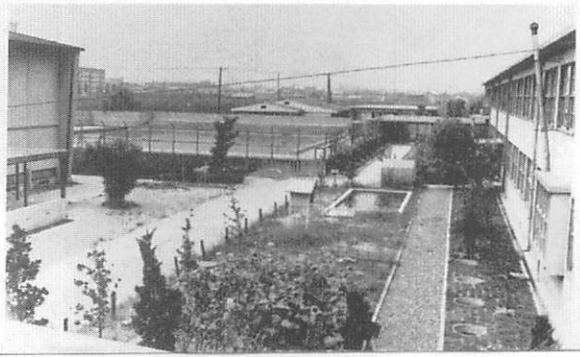
校内施設と緑化

—体育館—

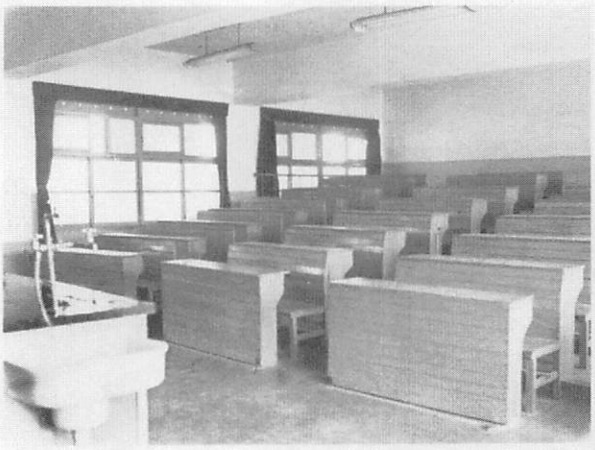


—プール—

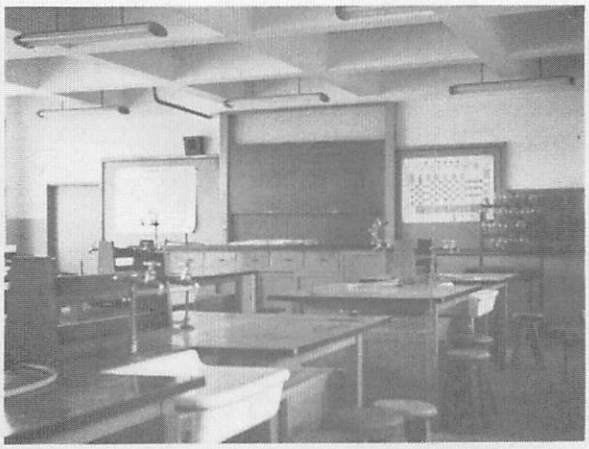




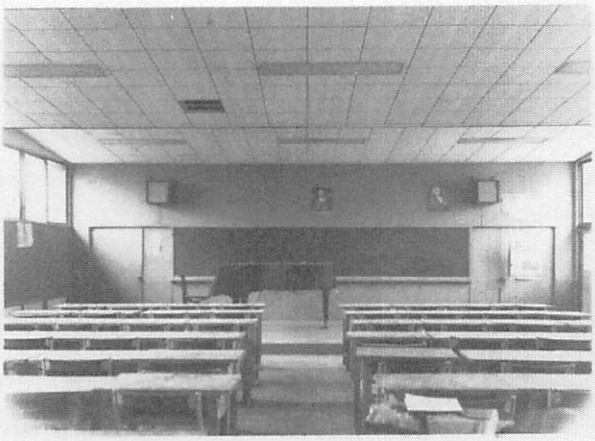
—中　庭—



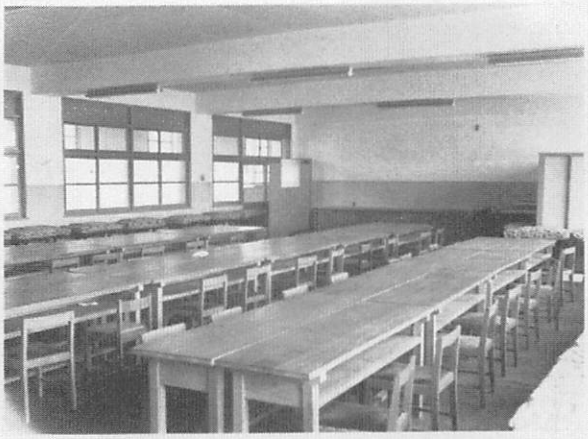
— 理科講義室 —



— 化学実験室 —



— 音楽教室 —

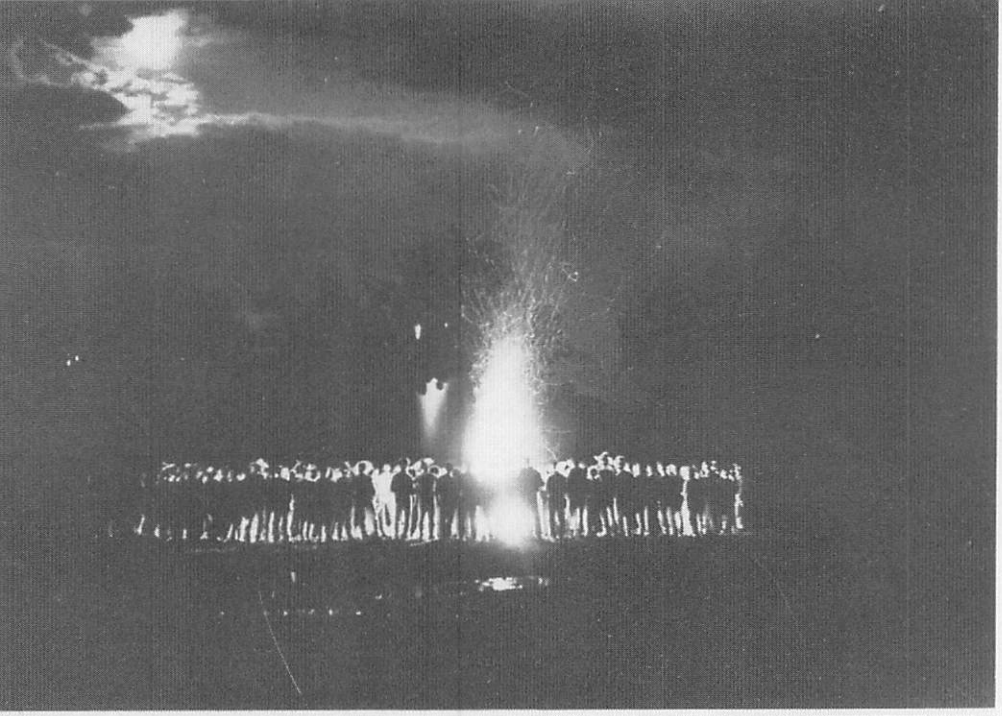


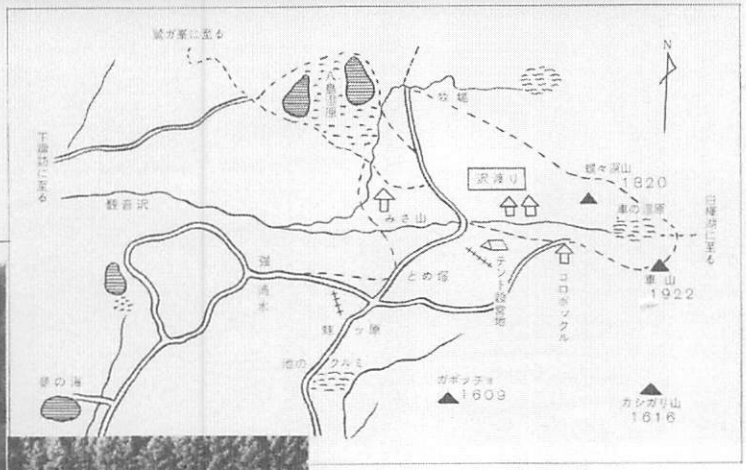
— 被服教室 —

— 保健室 —

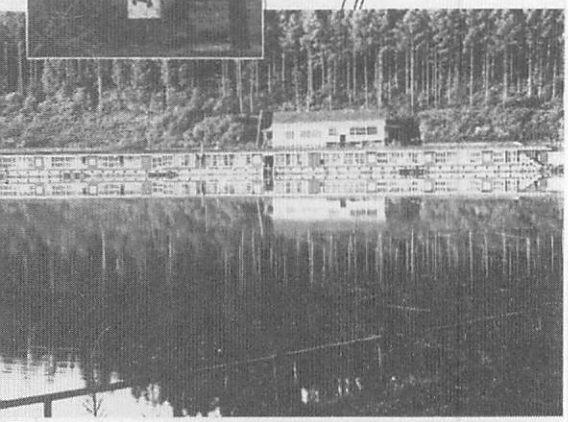
— 緑友会館 —

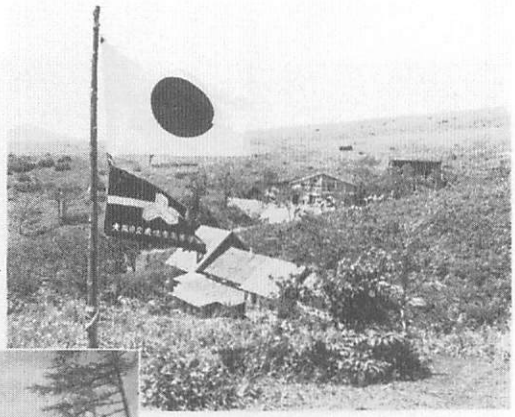
教育キャンプ



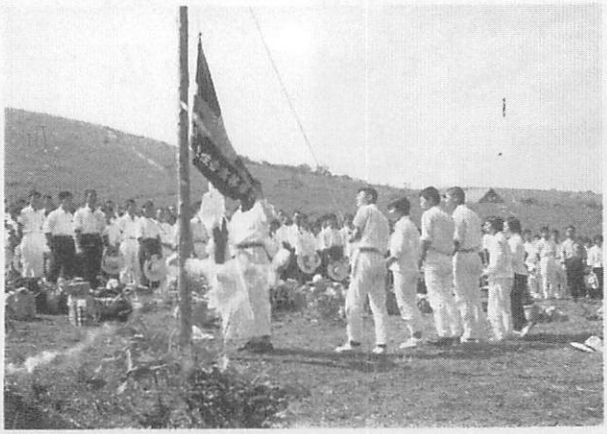

N
沢渡り
みさ山
とめ谷
コロボックル
ガボッチョ
1609
カシガ弓山
1616
車山
1922
1820

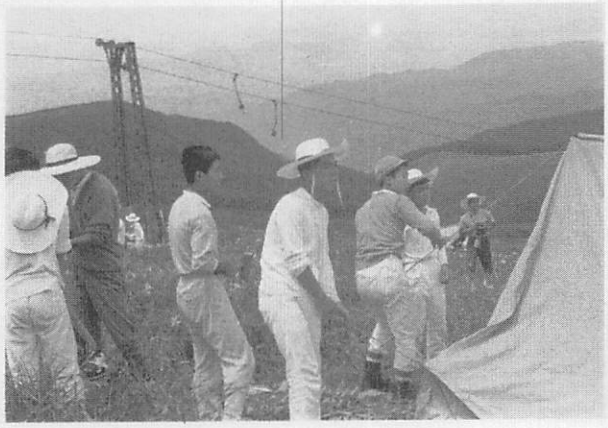
縣立公園夢の海

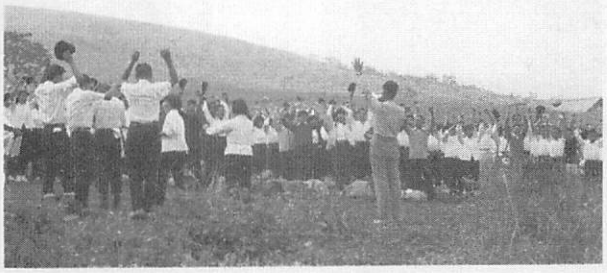




縣立公園霧ヶ峰
PREFECTURAL PARK
KIRIGAMINE



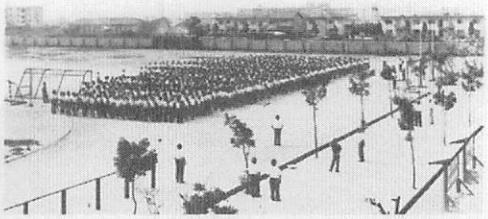




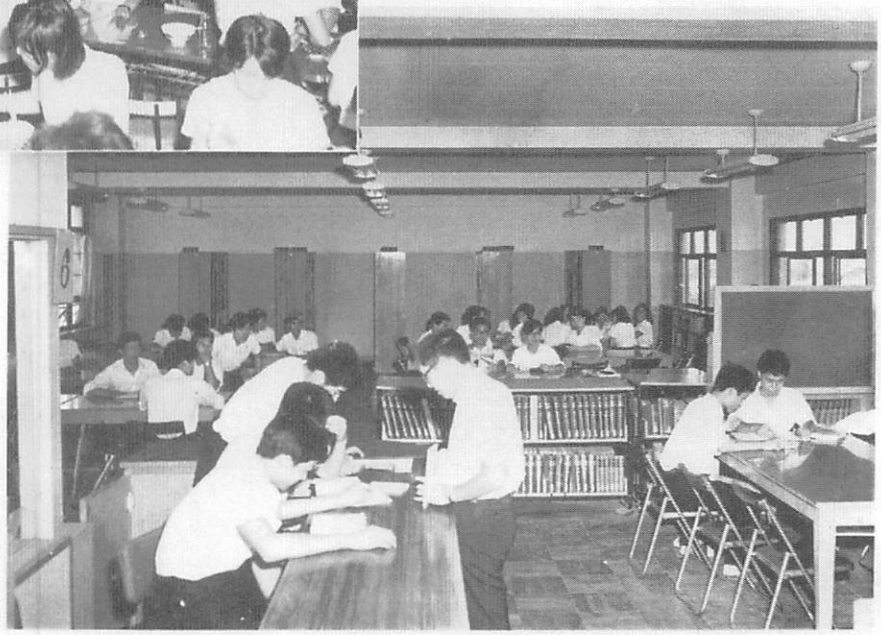
生活アルバム

— 登校風景 —

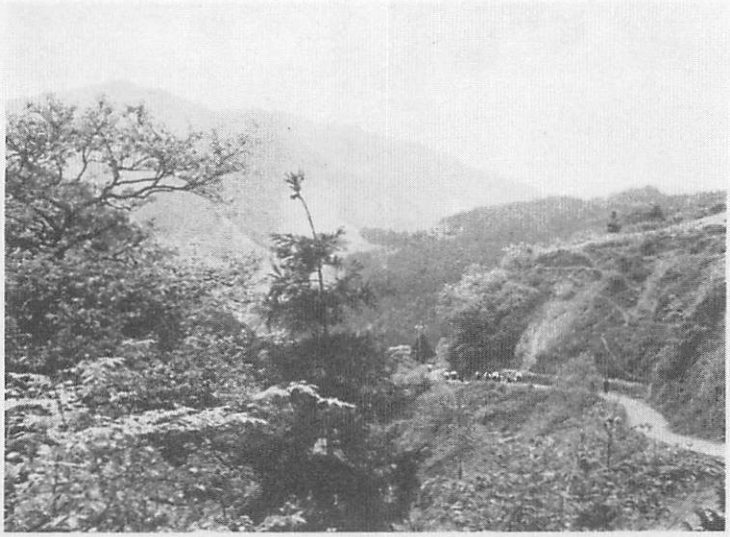
— 昼　食 —（食堂）



— 朝　礼 —



— 放課後 —（図書館）



— 金剛登山 —

— 第一期生の頃 —

— 登山の途中 —

— 合宿補習 — （当麻寺にて）

— スキー講習会 — （関温泉にて）

文　化　祭

— 現　在 —　（大手前会館）

— 創立三周年の文化祭 —

（校庭にテントを張って）

— グランドに生徒はまばら —

（1958年）

体　育　祭

— 現　在 —

クラブ活動の記録

１９５６年度

陸上競技クラブ
　全国大会出場２名

１９５７年度

陸上競技クラブ
　全国大会出場　４名　棒高跳２位入賞
　東西対抗出場　１名

１９５８年度

生物研究クラブ
　生物研究クラブ生徒研究発表会　大阪府教育委員会賞受賞
美術クラブ
　全日本学生油絵コンクール　入選６名
陸上競技クラブ
　全国大会出場　１名

１９５９年度

生物研究クラブ
　生物研究クラブ生徒研究発表会　大阪府教育委員会賞受賞
美術クラブ
　全日本学生油絵コンクール　入選６名
陸上競技クラブ
　全国大会出場　６名
　国体出場　２名　百十米Ｊ．Ｈ．優勝

１９６０年度

陸上競技部

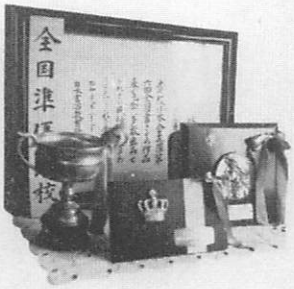
近畿綜合大会２位
全国大会５位
全国大会出場　10名　百十米J.H優勝、二百米H優勝、百米３位、槍投５位入賞
　東西対抗出場　３名　百十米Ｊ．Ｈ．優勝
　国体出場　４名　百十米Ｊ．Ｈ．優勝

１９６１年度

美術クラブ
　全日本学生油絵コンクール　最優秀校奨励賞　特賞１名　入賞４名　入選１６名
陸上競技クラブ
　全国大会出場　４名
　東西対抗出場　１名　棒高跳５位入賞
　国体出場　２名　棒高跳５位入賞
ハンドボールクラブ
　大阪府民体育祭　優勝
　近畿綜合大会　３位

１９６２年度

美術クラブ
　全日本学生油絵コンクール　入選１１名
書道クラブ
　全国学生競書大会　団体全国準優勝　個人特別賞５名
　全国学生書芸展　団体優良校　個人特別賞６名



陸上競技クラブ
　全国大会出場　２名
　国体出場　１名
水泳クラブ
　全国大会出場　１名
　国体出場　１名
女子バスケットボールクラブ
　大阪高校バスケットボール大会　３位
　近畿大会出場

１９６３年度

美術クラブ
　全日本学生油絵コンクール　入賞２名　入選13名
書道クラブ
　全国学生書初展　学校賞　個人特別賞３名
　全国学生競書大会　団体全国準優勝　個人特別賞５名
陸上競技クラブ
　全国大会出場　１名
　国体出場　１名
ハンドボールクラブ
　近畿綜合大会出場
　全国大会出場（ベスト10）
水泳クラブ
　全国大会出場　１名

１９６４年度

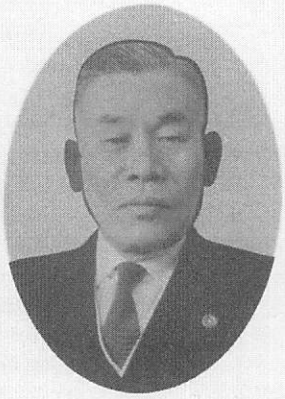
書道クラブ
　全国学生競書大会　団体全国準優勝　個人特別賞７名
陸上競技クラブ
　近畿綜合３位
　全国大会出場　８名
剣道クラブ
　大阪府高等学校剣道優勝大会３位
　近畿大会出場　７名

追記　三期生田中章は百十米Ｈでオリンピックに出場決定

ＰＴＡ・みどり会

歴代ＰＴＡ会長

初代　片岡善四郎氏
（１９５５～５６年）



二代　樋口治一氏
（１９５７～５８年度）

三代　浅井賢次氏
五代
（１９５９～６０年度）
（１９６２年度）

四代　新野米蔵氏
（１９６１年度）

六代　水野清亀氏
（１９６３年度）

現　吉永太四郎氏
（１９６４年度）

みどり会

昭和３５年８月２５日本校ＰＴＡ旧会員の有志を以て結成以来会員は逐年増加現在１９９名に達し、会長は樋口治一氏が連続勤めている。学校の行事や施設拡充に対し、側面から協力している。

現　職　員　名　簿（着任順）

（1964年9月現在）

職名	氏名	担当学科	着任年月日
校長	葭原泰雄		'62.4.1
教頭	高木　隆	社会	'64.4.1
教諭	肥田耕也	社会	'55.4.1
〃	鶴見光雄	国語	'55.4.1
〃	保田光男	保体	'55.4.1
〃	塚本盛治	物・地	'55.4.1
〃	西内裕子	家庭	'55.4.1
〃	岡本　昇	英語	'55.4.1
〃	広田久夫	数学	'55.4.1
〃	栗本栄三	英語	'55.7.16
〃	竹内　清	国語	'55.8.1
〃	堀田義一	英語	'56.11.1
〃	筒井謙二	数学	'57.4.1
〃	西川純一	国語	'57.4.1
〃	吉門　章	英語	'57.4.1
〃	岡田淑子	保体	'57.4.1
〃	広瀬武成	数学	'57.4.1
〃	赤尾整志	生物	'57.4.1
〃	三木雅文	社会	'57.4.1
〃	橋本久弥	物理	'57.5.16
〃	吉川進一	国語	'58.4.1
〃	阿部保男	数学	'58.4.1
〃	天野　浩	保体	'58.4.1
〃	中谷　肇	英語	'58.4.1
〃	日下義忠	数学	'58.4.1
〃	中原晃雄	社会	'58.5.1
〃	亀田　弘	数学	'59.4.1
〃	保木幸雄	化・地	'59.4.1
〃	染田一郎	国語	'59.4.1
〃	宮井　隆	社会	'59.4.1
〃	矢野喜久男	美術	'59.4.1
〃	室井勝弥	保体	'59.4.1
〃	小林　喬	英語	'60.4.1
〃	杉江正美	音楽	'60.4.1
〃	船津末年	数学	'60.7.16
〃	豊永　彰	英語	'61.4.1
〃	北守彦雄	化・生	'62.1.16
〃	田代徹也	社会	'62.4.1
〃	川崎吾一	書道	'62.4.1

職名	氏名	担当学科	着任年月日
教諭	前田史夫	社会	'62.9.1
〃	港　博	物理	'63.4.1
〃	小林義次	英語	'63.4.1
〃	国貞祐一	国語	'63.4.1
〃	斉藤　暁	化・地	'63.4.1
〃	岡本修治	生物	'63.4.1
〃	木下　透	国語	'63.4.1
〃	武田　透	保体	'63.4.1
〃	山中茂樹	英語	'63.4.1
〃	深谷　実	国語	'64.4.1
〃	篠田暎一	数学	'64.4.1
〃	湯浅　明	生物	'64.4.1
〃	藤田幸生	英語	'64.4.1
〃	末光文雄	国語	'64.4.1
〃	田中　譲	社会	'64.4.1
〃	森本憲夫	数学	'64.4.1
〃	片山尚美	保体	'64.4.1
〃	福村修一	数学	'64.4.1
〃	宗像　輝	国語	'64.4.1
養護教諭	稲葉安栄		'55.4.1
実習助手	茨木美代子	家庭	'55.4.1
	中司郁子	生・地	'59.4.1
	小松聡子	物・化	'64.4.1
	茶谷治子	図書	'64.6.1
事務長	浦野卯市郎		'63.8.17
主査	山田信夫		'55.5.1
書記	北村福子		'56.5.16
書記	柿本広子		'58.4.1
書記補	伊藤義臣		'63.4.1
書記補	立道清美		'63.9.1
校務員	柚本光三		'55.4.1
〃	奥本信太郎		'55.5.16
〃	山野正澄		'57.4.19
〃	藤原清二		'60.4.16
学校医	西尾呉郎		'58.10.1
歯科医	大崎波真治		'61.10.1
学校薬剤師	太田元康		'61.4.1
図書館事務	吉川豊子		'58.7.1
給仕	福原千恵子		'61.5.19
〃	東元由美子		'64.4.1

旧　職　員　名　簿　（離任順）

氏　　名	担当学科	着離任年月日
堀江駒太郎	初代校長	'55.3.15～'62.3.31
小野雄三	初代教頭	'55.4.1～'58.3.31
森口博子	事務助手	'55.4.1～'58.3.31
池辺義教	社会科	'56.4.1～'58.4.25
南　要太郎	初代事務長	'55.4.1～'59.3.31
吉年幸子	理科助手	'58.4.1～'59.3.31
加藤文雄	事務員	'55.11.1～'59.4.30
泉　悌二	英語科	'58.4.1～'60.3.31
小島悦子	理科助手	'58.4.1～'60.10.31
市川武彦	給仕	'57.4.16～'61.3.31
桑野節司	理科(生)	'60.7.1～'61.7.31
宇田　章	事務員	'59.11.16～'61.9.15
嵩野充恵	理科助手	'60.11.1～'62.1.15
宮崎彰夫	芸術科(書道)	'60.10.1～'62.3.31
小松素彦	社会科	'59.4.1～'62.8.31
岩本　明	事務員	'59.6.1～'62.10.7

氏　　名	担当学科	着離任年月日
山中善一	二代事務長	'59.4.1～'62.10.9
中洲陽一	理科(化)	'56.4.1～'63.3.31
松本　晃	保健体育科	'57.4.1～'63.3.31
倉西博之	国語科	'57.4.1～'63.3.31
山岸正孝	理科(生)	'58.4.1～'63.3.31
大柴　繁	英語科	'59.4.1～'63.3.31
杉山　治	事務員	'61.9.16～'63.4.15
三好三郎	三代事務長	'59.11.1～'63.8.16
吉田嘉高	社会科	'55.5.1～'64.3.31
矢野　清	二代教頭	'55.9.1～'64.3.31
髙橋哲也	国語科	'58.4.1～'64.3.31
細川方子	国語科	'59.4.1～'64.3.31
梅本典子	給仕	'61.4.1～'64.3.31
田中貞子	理科助手	'62.1.16～'64.3.31
樫野　尚	数学科	'63 4.1.～'64.3.31
土田田鶴子	家庭科	'63.4.1～'64.3.31

編　集　後　記

十周年の記念行事の一環としてこの十周年誌が編集されることになり、編集委員のメンバーがきまったのが本年の四月新学期が始まって早々でありました。十月上旬の記念式典までの間には夏季休暇もあり、多忙でも一学期中にすべての準備の作業を終えてしまわなければならないので、最初の編集会議の時大体の基本方針をきめ、原稿の御依頼は最少限にとどめ写真による十周年誌という形を確認した訳であります。早速原稿をお願いした訳ですが、快くしかも編集までに玉稿を賜わったことを心から感謝いたします。それよりも写真の蒐集に思わぬ手間をとり、休暇に入ってからも編集会議を開いたりしましたが、何分にも種々の行事等のため編集委員全員そろうことがなく、結局仕上げを御依頼していた矢野先生、川崎先生によって現在のような形にきまった訳です。

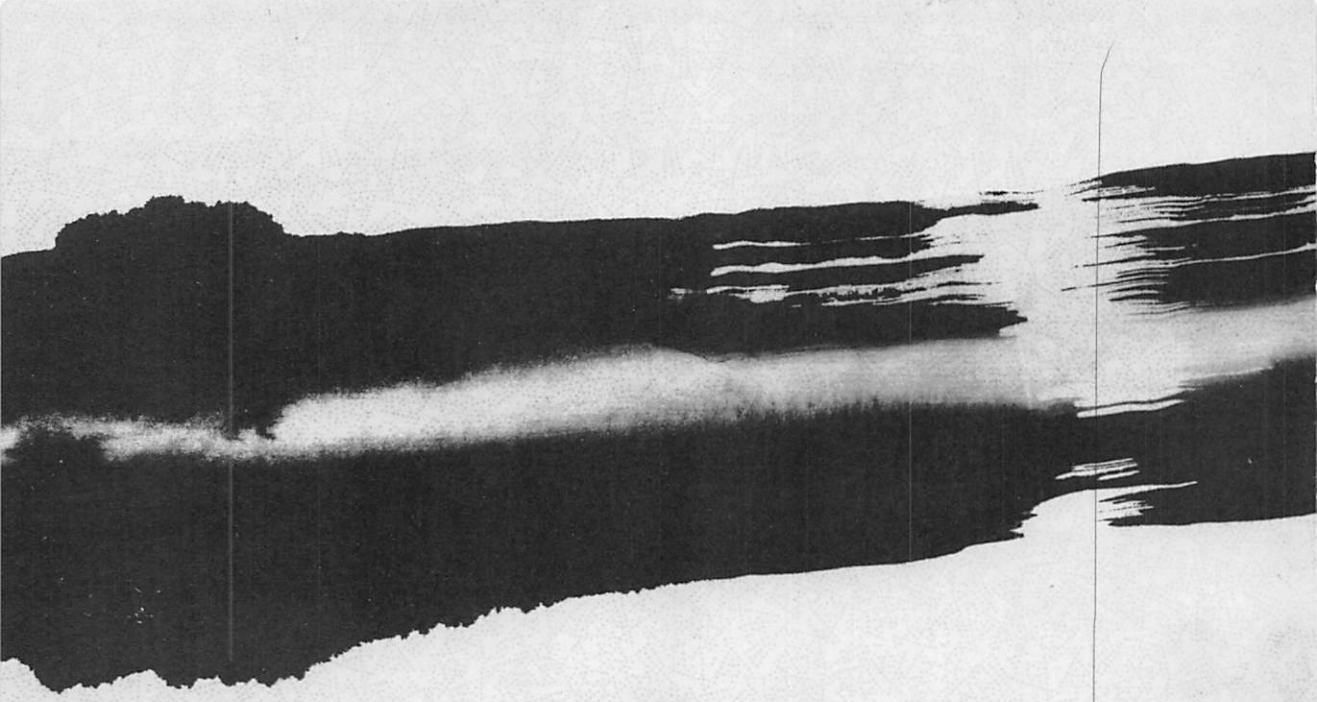
写真の蒐集範囲も時日が制約されているために殆んど学校所荘のものからとった訳ですが、一部個人の私物を提供して下さった方々に厚くお礼申し上げます。卒業生等にも呼びかけて広く写真の蒐集をと思ったのですが、時日の関係上割愛のやむなきに至りましたことをおわびします。

ともかくこうしてでき上ったものと、最初頭に描いたものとのくいちがいは何としても避けがたいものでしよう。不慣れの者の寄り集まりでしたのでこの点御諒承下さい。

なお表紙は本校教諭川崎吾一先生の揮毫によるもので、この度特に本誌のためにおねがいした漢字の「十」という字であることを紹介しておきます。

編集委員（五十音順）　岡田淑子　川崎吾一　鶴見光雄　中原晃雄　橋本久弥　三木雅文　矢野喜久里

昭和39年9月15日印刷
昭和39年10月3日発行　（非売品）
編集者　十周年誌編集委員会
発行者　十周年記念委員会
印刷所　大阪美術印刷株式会社
発行所　大阪府立東住吉高等学校



1964・10・3

2019年3月31日復刻版発行［12期生卒業50周年記念］